

## 第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 ( 概要 )

先般開催した、令和5年度第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

### 1. 日時

令和5年9月6日(水) 13時30分～15時30分

### 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室および WEB

### 3. 主な意見等

- 夏場の下刈り事業が順調に終了し、現在は除伐、間伐事業を中心に、一部主伐も実施している。合板材の受入調整により、カラマツを製材工場にシフトしたが、製材工場で在庫が積み増しとなっている。カラマツは今まで慢性的に不足していたことから、極端な対応は見られない。合板向けカラマツは一部の工場で集荷を再開したため、受入先等と径級調整しながら伐採していく。一方、トドマツはカラマツより厳しい状況。現在伐採時期だが、工場の受入動向等をみながら動かざるを得ない。国有林材については、質の良い材については、製材工場も購入意向があるので、選別をきちんとし、皆で良い方向へ向かっていきたい。
- 道有林について、令和5年8月末の競争入札では、9森林室で56物件中47物件、計画量246千㎡のうち125千㎡が落札され、進捗率は50.8%。今後9森林室で入札を予定している。燃料価格高騰等による緊急対策として、原木や製材等の安定供給に資するため、燃油消費量の削減に資する機械の導入や中間土場等の整備への支援を行っている。また道産木材の利用を促進していくため、モデル的な民間施設の整備に対する支援事業を立ち上げたところ。今後も HOKKAIDO WOOD ブランドの活用等を通じて、北海道産木材の需要喚起を図っていく。
- カラマツ丸太は比較的健闘しているが、仕入れ調整は継続し、原木価格も弱含みが続く。工場では全てのコストが上昇し、製品価格を安易に下げる状況ではなく、先行き不安な状況が続くと見られる。トドマツも市況が弱い状況。移出合板については、メーカーは減産しながらも市中在庫の整備が進み、需給バランスが取れつつある。需要動向についてはまだ楽観視できない。建築関係では小規模な非住宅物件が出てきている。輸入製品については、ポートの在庫調整に時間がかかり、適正值に至るには年度内はかかる見込み。
- 素材生産事業は、局地的な豪雨等の影響により、若干遅れているところもあるが、全体としては概ね順調に推移している。原材料不足に対しては、末木枝条の集荷コストを抑えてバイオマス発電や熱源利用での利用を増やしていく必要がある。トラック運転手の不足や燃料の高騰で運材会社も大変な状況である。また、砂利関係業者も砂利の高騰でチャーター契約が進まないということも

聞いている。今年度国有林で砂利単価が見直されたが、まだ実態は厳しい状況。

- トドマツ製品の動きが悪いが、表立って生産調整している話は聞かない。現在の在庫は時期的に傷みやすいため、生産調整せずに原木在庫を整理している状況。全体的なコスト上昇により、再開発が中止となる等、資材の需要に不安がある。チップ工場については、原料材の高騰で非常に厳しい状況。北海道においては、今後のバイオマス発電や木材チップの需要の見込み等の情報を公開していただきたい。国有林材については、選別をもう少し厳しくすると、現在の不落物件は材が傷みやすいため、処理方法が大事。材質が良い冬場は、ある程度買われるので予定通りで良い。
- 国有林については、原料材の出材量が減少すると困る。チップ工場は原料が足りない状況が継続している。段ボール原紙以外の道産材を利用した紙の下期生産計画は、ここ数年の例年並み。チップ原料については、製材工場の背板が昨年より2割以上減少し、さらに本州の工場火災により北海道に入ってこなくなったが、ペイマツの輸入材が確保でき、かろうじて生産に繋げている状況である。
- トドマツ製材については、回復が見られず、出荷量が昨年から半減、原料消費は6割程度で、生産調整している。価格の下げ圧力が強いが、下げても栈木の荷動きは変わらないことから、価格を下げないよう対応しているところ。荷動きが悪い分、原木在庫が増え、季節的に材が傷んで、歩留まりが落ちるので、新しい原料がほしい。国有林材は計画通り進めたなかで、柔軟な対応をお願いしたい。北海道においては、半導体工場の建設に関して、大規模で工期も短いので、早めに情報をいただきたい。地域材利用が要件と聞いていることから、我々が供給していくことを想定しながら準備が必要。
- カラマツの産業用資材については、先行きの見通しが立たない状況が長期に続いている。昨年はウッドショックによる製品の値上げで売り上げ自体は上昇したが、販売量は1割弱減少している。今年度6月末までの販売量は昨年度比2割減少しており、現在も回復していない。産業用資材は消費量の増加により受注が増えるため、単価が上がるだけでは仕事量は増えない。今後は従来から2割減少したところが通常になると考えている。国有林材については、製材業界として傷みのない材が好ましいことから材の傷みが少ない時期に固めて出していただきたい。
- 原料材の単価が低質材を上回っているが、カスケード利用の観点から、品質に合った用途で利用し、最後に燃やすという形が良い。FIT 制度が終わる 20 年後にコスト上昇により事業を辞める発電所がでてくることで、今まで利用されていた原料材の行き先を懸念している。パーティクルボードは原料集めが課題。現在住宅着工数が落ち、解体数の減少により、解体材や廃材が中々手に入らない。そのため、現在の年間生産量はピーク時の半分となっている。国産材については、一般材低質材が売れなくとも伐採量は減らさないでいただきたい。